

旧庁舎跡地の活用に関する特別委員会

送付 2 2 - 1

千代田区庁舎跡地とその周辺の景観保全に関する陳情書

受付年月日 平成 2 2 年 3 月 2 3 日

陳 情 者

## 陳情書

(趣旨)

謹啓

千代田区議会議長におかれましては、福祉、教育、街づくり政策を通じて、区民生活のために日々ご尽力頂き誠にありがとうございます。

私どもは区の広報や千代田区のホームページ、出張所の掲示等を通じて、区政全般の情報をいただいておりますが、このところ旧庁舎跡地の活用の話題にふれることが多くなりました。

この10年間の区民の施設要望、旧庁舎の活用方法のアンケート調査では年度によって、順位こそ違え、スポーツ施設、図書館、駐車場、高齢者福祉施設、健康センター、公園広場等が要望の上位をしめています。旧庁舎の跡地利用案はその中から選択されると思われます。しかしながら、図書館と駐車場は新庁舎にすでに併設されております。スポーツ施設としてはリニューアルして、ミズノ株式会社運営を委託している内神田のスポーツセンターがあります。高齢者福祉施設としては麹町地区には「いきいきプラザ一番町」神田地区には「岩本町ほほえみプラザ」「西神田高齢者在宅サービスセンター」があります。さらに昨年末には神田駿河台に区立障害者福祉センター「えみふる」もオープンしました。これらと同様の施設を旧庁舎跡に建設するとすれば、敷地の手狭さのためかなりの高層化が必要となり、莫大な建築コストが生じるでしょう。これらと同様の施設は今後、統廃合された区内の小学校、中学校の跡地やこれからも建設される予定の施設で区民の要望に十分に答えられるのではないのでしょうか。

千代田区旧庁舎跡地は花と緑にあふれる環境省管轄の国民公園である北の丸公園を背景とした牛ヶ淵に面しています。牛ヶ淵では春にレンゲが咲き、土手をうすむらさき色に染めます。牛ヶ淵の奥ではほたるも生息しているとの話も耳にしたことがあります。

右をみれば、武道館がその雄姿を牛ヶ淵に映し、左には万治元年(1658)に再建され、昭和36年に高麗・渡櫓門が修復された国指定重要文化財の旧江戸城清水門の美しい姿が望めます。私たちはまさに後生に江戸城という歴史を背景としたこの千代田区屈指の景観を保存していく義務があるのではないのでしょうか。この景観の前にはどんな豪華な施設の建築プランも色あせてしまうように思えます。

平成20年2月27日には千代田区・港区・新宿区が合同で飯田橋から赤坂見附に至る江戸城外堀跡の保存・整備・活用のあり方を定め、計画的な保存・活用するための保存管理計画を策定することとなり、その原案というべき報告書が策定委員会から3区(千代田区・港区・新宿区)に提出されました。

また、昨年頃より、千代田区観光協会や四番町歴史民俗資料館等主催の江戸城に関するウォークやツアーが多く開催されるようになり、江戸城を中心とした歴史と景観への関心が高まっているようです。区議会でも昨年11月20日、本年度2月23日には、区民集会運営協議会(座長：桜井ただし)主催で皇居

周辺の景観と観光を考える区民講演会が開かれ、区議会も千代田区の景観と観光の発展について動き出しているようです。

千代田区旧庁舎跡は清水門より北の丸公園を経て、平川門、乾門、北桔橋門より東御苑へ続く起点となり、一方、九段会館を通り、春、さくら満開の田安門を経て、整備が終わり回遊性のたかまった千鳥ヶ淵緑道への出発点となります。千鳥ヶ淵緑道より靖国通りをはさんでは靖国神社があり、靖国通りのさくらと靖国神社内苑外苑のさくらはあいまって、一層美しさを際立たせます。千代田のさくらまつりには毎年100万人以上もの来場者があります。

この周辺は夏の新緑、秋の紅葉もまた、美しく、四季を通じて人々の目を楽しませてくれます。

以上の点をふまえ、私たちはここに旧庁舎の跡地を江戸城の歴史と景観を俯瞰できる千代田区の観光スポットの中心とするべく「ちよだ御苑」(仮称)として、整備していくことを提案します。千代田区旧庁舎跡を公園として整備し、回遊性を持たせ、四季折々の植物を植え、四季を通じての景観を楽しめるようにします。計画に応じては、低層階の「江戸城資料館」等を併設してもよいと思います。さらに発展的に考えるなら公園化すると同時に水辺には船着場をもうけ、牛ヶ淵に千鳥ヶ淵同様のボート乗り場も設けます。ボート乗り場のそばには、人々が憩えるカフェも作ります。必要によっては、隣接する千代田公会堂のビルとも話し合い、敷地の拡大を希望します。このように旧庁舎跡は「ちよだ御苑」として、公園整備されることで「ちよだ御苑」「北の丸公園」「東御苑」「皇居外苑」、また、「ちよだ御苑」「千鳥ヶ淵緑道」「靖国神社」の2つのルートを形成し、歴史と緑と花の観光ルートとして、東京の中心千代田区観光のメインスポットとなるのです。

大正末期、関東大震災によって灰燼となった東京を不屈の闘志で復興に導いたのは当時の東京市長後藤新平でした。後藤新平は昭和通りを初めとして、数多くの復興事業を成し遂げました。復興事業によって、建設された建物が空襲等でなくなってしまった今でも、千代田区を流れる日本橋川、神田川では、復興事業によって架橋された震災復興橋梁を数多く見ることができます。千代田区にはいまだに後藤新平の復興事業の痕跡が数多く残されているのです。

旧庁舎跡の景観の保存は、後藤新平の復興事業にも匹敵する大事業となるでしょう。願わくば、後藤新平の気概をもって、かけがえのない景観である旧区庁舎跡地を公園化する決断を議長(区長)の総意をもってしていただきたく、ここにお願ひ申し上げ、陳情いたします。

平成22年3月19日

千代田区議会議長 桜井ただし 殿